

18. 症状および兆候

文献

山崎翼、佐藤万代、矢野忠、ほか. 鍼治療および生活習慣改善による認知機能の向上についてのランダム化比較試験. *日本東洋医学雑誌* 2012; 63(4): 229-237. 医中誌 Web ID: 2012322038

1. 目的

認知機能に対する鍼治療および生活習慣改善指導の影響の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

明治国際医療大学、京都、日本

4. 参加者

物忘れが気になる 60 歳以上 75 歳未満の男女 40 名 (男女各 20 名、平均年齢 68.5 歳)。

5. 介入

Arm 1: 鍼治療併用群 20 名 (男性 9 名、女性 11 名) 脱落者: アクティグラフィ 1 名。生活習慣改善に加え、鍼治療と TEAS を併用した。鍼治療は、太溪(KI-3)、腎兪(BL-23)、肝兪(BL-18)、関元(CV-4)、百会(GV-20)、太衝(LV-3)、足三里(ST-36)、中脘(CV-12)、脾兪(BL-20)にステンレス鍼 (0.14×30mm、セイリン社製) を 10 分間置鍼、治療時間は 30 分以内。TEAS は、両側の合谷と手三里をつなぎ 1Hz、15 分間、毎日午前と午後各 1 回、各被験者自身が自宅で刺激。

Arm 2: 生活習慣改善群 20 名 (男性 11 名、女性 9 名) 脱落者: MMSE 3 名、WMS-R 2 名、アクティグラフィ 4 名、免疫測定 3 名。生活習慣の改善として、1 日 5,000 歩の連続歩行を目標としたウォーキング、日記の記載、テキストを用いた課題。

6. 主なアウトカム評価項目

簡易版知能検査 (MMSE)、記憶障害評価 WMS-R、アクティグラフィを用いた睡眠の質の評価、NK 細胞活性とリンパ球サブポピュレーションによる免疫能評価。

7. 主な結果

前後比較では、MMSE より鍼治療併用群でのみ有意に上昇した ($P<0.05$)。WMS-R より鍼治療併用群で 5 項目、生活習慣改善群で 6 項目有意に改善した。アクティグラフィより鍼治療併用群で 4 項目、生活習慣改善群で 2 項目有意に改善した。NK 細胞活性は有意差がみられなかった。リンパ球サブポピュレーションは鍼治療併用群で 7 項目、生活習慣改善群で 9 項目有意に変化した。群間比較では有意差はみられなかった。

8. 結論

認知機能の向上には鍼治療と TEAS の併用が有効である。

9. 鍼灸医学的言及

鍼治療による中枢神経系活性化について言及している。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

数多くの主観的、客観的指標を用いて多角的に解析し、鍼の認知機能向上効果について示唆した、貴重な研究である。しかし、結果の大部分は平均値を羅列しているにとどまっている。研究デザイン作成の際、パイロットスタディによって指標を絞っていただければ、整理された明確な結果になったのではないかと。また、考察でも述べているとおり、認知症を対象とした長期研究としては試験期間が不足している。今後はさらに洗練された研究デザインによる長期的研究が期待される。

12. Abstractor and date

保坂政嘉 2016.11.19